

FAST FACTS



国連開発計画 (UNDP)

Empowered lives.
Resilient nations.

UNDPとアフリカのミレニアム開発目標



アフリカにおけるミレニアム開発目標 (MDGs) の進捗状況は一概ではありません。MDGsとは、2015年までに貧困、飢餓、妊産婦と子どもの死亡率、疾病、不十分な住居環境、ジェンダーの不平等、および環境悪化等の改善を目指す、国際的に合意された8つの目標です。

初等教育、ジェンダーの平等、HIV/エイズとの闘いなど、いくつかの目標やターゲットについては進展が見られるものの、その他のターゲットに関しては2015年までの達成は難しい状況です。そうしたターゲットには、子どもの死亡率の削減、妊産婦の健康の改善、生物多様性損失の削減、完全かつ生産的な雇用の実現などが含まれます。安全な飲料水へのアクセスや飢餓の削減をはじめとするその他のターゲットは、取組みが強化されない限り、部分的な達成にとどまる見込みです。

- 目標1: 1日当たり1.25米ドル未満で暮らしているアフリカの人々(北アフリカを除く)の割合は、1990年の56.5%から2008年の47.5%へとわずかに減少しました。拡大した雇用のうち、70%は不安定な就労が占めています。
- 目標2: ほとんどのアフリカ諸国で、初等教育の純就学率が飛躍的に上昇し、いくつかの国では90%を上回っています。しかし修了率はほとんど改善が見られず、一部の国ではわずか33%にとどまっています。

主要事実

- カメルーン、ガンビア、ガーナ、セネガルなどは、この10年間で、極度の貧困の削減に向けて高い評価に値する進捗をしました。
- エチオピア、ケニア、モザンビーク、ニジェール、タンザニアでは、初等教育の授業料が無償化されたことにより、就学率が急激に上昇しました。
- ルワンダでは国会議員に占める女性の割合が56%に達しましたが、南アフリカでは45%にとどまっています。
- 中央アフリカ共和国、コートジボワール、リベリア、マリ、ジンバブエでは、リーダーシップ、啓発活動、任意検査と無料の抗レトロウイルス療法の導入の組み合わせで、HIV/エイズに関するターゲットにおいて急速な進捗が見られ、目標達成の見込みが高まっています。
- ボツワナ、コモロ、モーリシャス、ナミビア、南アフリカでは、2008年には90%以上で安全な飲料水へのアクセスができるようになりました。

- 目標3: 小学校に入学する子どもの男女比については、多くのアフリカ諸国で改善し続けています。1990/91年から2009年までの比較可能なデータが存在する42か国のうち、29か国で男女比率が0.9(男子100人に対して女子90人)を上回っています。
- 目標4: アフリカ(北アフリカを除く)における子どもの死亡率の平均低下率は、1990~2000年は年間1.2%でしたが、2000~2010年は年間2.4%と2倍になりました。
- 目標5: 1990年から2008年にかけて、多くのアフリカ諸国で妊産婦死亡率が大幅に低下しましたが、依然として事例ごとにかかりの格差が残っています。
- 目標6: アフリカでは、エイズに関連する死者数は、2000年代半ばの220万人をピークに、2010年には190万人まで減少しました。年間の新規HIV感染者数は、1997年から2010年までの間に21%減少しました。
- 目標7: アフリカは環境悪化と気候変動の影響に苦しんでいます。同時に、生物多様性保護の取組みが強化されています。安全な飲料水へのアクセスに関するターゲットについては、進捗は見られるものの達成が難しい状況です。

- 目標8:OECD開発援助委員会(DAC)加盟国からアフリカへの二国間政府開発援助(ODA)は、2010年に293億ドルに達し、2009年から実質3.6%増加しました。全てのドナーからのアフリカに対するODAの支出純額(支出総額から回収額[被援助国から援助供与国への貸付の返済額]を引いたもの)は、2010年に479億ドルに達しました。

多くのターゲットで、評価に値する進捗が見られたものの、内的・外的ショック(食糧価格の乱高下、金融危機からの回復見通しの不透明さ、気候変動、人口増加)に対するアフリカの脆弱性は、今後もミレニアム開発目標(MDGs)の達成を目指す、地域の力を脅かすでしょう。

UNDPの活動

国レベルでのモニタリング: UNDPでは、国の統計機関の能力強化をサポートするために、MDGs進捗の主要要因を特定し、文書化する上で必要なMDGs関連データの収集において、アフリカ諸国を支援しています。例えば、なぜ一部の国だけがMDGsに関して進捗を遂げているのかについて、より掘り下げた分析などを行ったMDGs国別報告書を作成するために、アフリカ諸国を支援しています。この報告書は、残された時間の中でMDGsを達成するために必要な行動について詳述しています。

UNDPの支援により、アフリカ地域に含まれる45か国中39か国でMDGsニーズ調査が実施され、その結果はMDGsに合致した貧困削減戦略の策定に使用されました。

知識の共有とアドボカシー: UNDPは、今後5年間にわたって開発の進展を加速・持続するための8つの行動指針を提示する「[MDGs達成のために何をすべきか？国際評価](#)」を発表しました。重点分野は、国家主権に基づいた参加型開発への支援、包括的な成長、社会サービスへの投資、女性と女兒のための機会拡大、低炭素エネルギーへのアクセス、国内の資源動員、政府開発援助(ODA)に関する国際公約の履行です。

また2010年、2011年、2012年にUNDPは、アフリカ連合委員会、アフリカ開発銀行、および国連アフリカ経済委員会と共同で、「[MDGs進捗報告書ーアフリカにおけるMDGs進捗評価](#)」と題した年次報告書を作成しました。この報告書では、進展を促進した政策改革と社会的保護イニシアティブが紹介されています。

MDGs達成の加速: UNDPはMDG加速フレームワーク(MAF)を作成しました。これは進捗が滞っているMDGsに国レベルで取り組むための斬新なアプローチです。このフレームワークは、各国がMDGs優先課題に取り組むうえで、阻害要因となっているものを特定し、達成のために自国に適した行動計画の策定を

体系的に支援するものです。**ブルキナファソ、チャド、マリ、ニジェール、タンザニア、トーゴ**は、食糧の安定確保に重点を置いてMAFに着手しました。**ガーナとウガンダ**は妊産婦の健康を重視しています。**ガーナ**はさらに、衛生設備へのアクセスに関する問題に取り組むためにもこのMAFを活用することにしています。

MDGsに関連する介入: 現場で実施されるUNDPのプログラムとイニシアティブは、市民社会、民間企業、政府パートナー、および国際機関と足並みをそろえて、革新的な成果を達成できるよう各国を支援することにより、ミレニアム開発目標に取り組んでいます。

- **エチオピア**は、UNDPと英国国際開発省(DFID)から技術面、財政面の支援を受けて、温室効果ガスの排出を増やさずに今後20年間で国の開発を強化することを目指す計画に着手しました。このイニシアティブは、世界的な排出削減努力に貢献すると同時に、エチオピアの人間開発に広範かつ直接的な影響を与えることが予想されます。
- UNDPは、ビル&メリンダ・ゲイツ財団と協力して、**西アフリカ**におけるエネルギーアクセスを改善するための地域プログラムを設立し、農村部住民350万人にさまざまなエネルギーサービスを提供しています。このプログラムでは、ディーゼルとバイオ燃料の発動機を使用して、照明のための発電、井戸からの水の汲み上げ、作物の脱穀、電話のバッテリー充電など大変な家事から女性と地域住民を解放しました。
- **リベリア**では、保健省が世界エイズ・結核・マラリア対策基金からの数百万ドルに及ぶ助成金の受入責任機関という役割を引き継ぐことができるよう、UNDP主導のプログラムを通じて必要な専門知識を提供しました。2010年末までに、新たに設立された114か所のセンターで15万人以上がHIV/エイズに関するカウンセリングと治療を受け、数万人の妊婦がHIV検査を受けました。現在では、世界エイズ・結核・マラリア対策基金の助成金を保健省が直接受け取り、これを管理しています。
- **タンザニア**でUNDPは、地球環境ファシリティ(GEF)とUNDPからの500万米ドルを超える資金拠出をもとに、国内最大の都市ダルエスサラームとその他の都市部地域の水源となっている広大な東アーク山脈を管理するための政府の能力強化を支援しました。

アフリカにおけるUNDPの活動の詳細については、www.undp.org/africaをご覧ください。

